
もうすぐ、さくらのさくし。

篠原 ひなた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もつすぐ、さくらもさくし。

【Nコード】

N0401K

【作者名】

篠原 ひなた

【あらすじ】

萌えるような春の気配が辺りに満ち、うぐいすこそ鳴かないにせよ、涼やかな風がふくひなたに寝ころんでいた彼は、グランドから響く『さくらさくら』に、もそもそと起きあがり、クツについた蒲公英の綿毛を手ではらって立ち上がる。しかたがないとぼやきながらも決して後ろ向きではない選択を一つ携えて。

かきつばた的な作品。

(前書き)

ある人のいはく、

「かきつばたといふ五文字を句の上に入て、旅の心をよめ」といひければ、よめる。

唐衣きつゝなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ

『伊勢物語』

萌えるような春の気配が日ごと濃さを増してゆく3月も半ばの世界が、予期したほどの感慨深さもないままに去りつつある、そんないつも通りの昼下がりに。

うぐいすが鳴くことこそないものの、ひと眠りするには十分なほどあたたかな木漏れ日が、三方を校舎に囲まれたこの狭い中庭にも降りそそいでいる。

涼やかな風が、あちこちに咲いた校長先生ご自慢の……なんでも外来種のせいで激減しつつある貴重な固有種らしく、全校集会のたびに話のネタにさられていた……黄色い蒲公英を揺らしながら芝生を駆けぬけてゆく。

グランドからは、誰が弾いているのか知らないけど入学したところからずっとそうだった通りに、名前も知らない弦楽器の澄みきった音色が響きつづけていた。

さくら さくら。

もともと音楽に造詣の深くない僕でも知っているその曲は、同じような丁寧さで何度も繰り返されていいかげん飽きがきそうになった今この瞬間に、ガラツと雰囲気が変わった。

さっきまでとは比べものにならない轟音は、入学してこのかた聴いたことがないような叩きつけるような勢いを秘めている。

狂ったような音程がギリギリのところまでバランスをとりながら次へ次と進み、あくまで軽快なリズムに込められた激しさは震えが走るほどで、つまりなんていうかその、聴いていて本当にスカツとするような、もうすぐ僕らは卒業で志望校に合格できていようが来ていなかろうがこの学校を去っていかないといけなくて、そして僕は合格しなかつただけだけどそんなこともどうでもよくなるような

演奏だった。

しかたがない、と僕は二日前に両親と担任から言われたその一言を繰り返してみても、第二希望にしてはいたものあまり乗り気ではなかった県外の学校に行くのも案外悪くないんじゃないかなんて昨日の僕が聴いたら耳を疑いそうなことを考えながら、体についた草を払い落して職員室に向かう。

もうすぐさくらもさくし、何を考えたのかよくわからないどころか誰かも知らない奏者がたった今そうしたように、少し新しいことをしてみようと思った。

(後書き)

『伊勢物語』が好きです。

言葉の風雅な選び方も素敵ですが、やはり人の心の機微がおもしろいと思います。

その『伊勢物語』にならって、この作品には仕掛けが一つあります。

前書きでネタバレしているので僭越かとは思いますが、読み解けた方は感想混じりに知らせていただけると嬉しいです。

ここまで読んでくださって、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0401k/>

もうすぐ、さくらもさくし。

2010年10月10日05時42分発行